



人と自然がふれあうまち
つなぐ未来へ
ひらつか90

Hiratsuka 90th anniversary

平塚市制施行90周年記念誌





平塚市長
落合 克宏

平塚市は昭和7年（1932年）4月1日、横浜市、横須賀市、川崎市に続き県内4番目の市として誕生し、令和4年（2022年）4月1日に市制施行90周年を迎えました。市制施行当時は、平塚本宿・平塚新宿・須賀・馬入からなり、人口は3万6000人余り。その後、順次、周辺町村と合併し、現在の市域となったのは、昭和32年（1957年）10月1日です。空襲や度重なる自然災害などにも力強く立ち向かい、多様な産業と都市基盤が充実した人口26万のまちを築き上げてきた先人の努力に、敬意を表すとともに心から感謝申し上げます。

令和4年（2022年）は、猛威を振るう新型コロナウイルス感染症が収束する気配がないことや、10年後に100周年の大きな節目を迎えることから、改めて式典などは実施せず、まちの歩みを振り返り、私たちが受け継いできた豊かなまちの恵みを次世代につなぐ契機としてさまざまな事業を展開しました。この1年間の記念事業を

通して私が感じたことは、これまでの歴史にもあるように、平塚には、市民が力を合わせて困難に打ち勝ち、新しい社会像や価値観を創り出していく力があるということです。

それを象徴しているのが、3年ぶりに開催した「第70回湘南ひらつか七夕まつり」。作り手の心意気や誇りが込められた七夕飾りがまちを彩る一方、デジタル化の流れをくむ非接触型の企画も登場するなど、伝統の七夕文化を絶やすまいとする強い思いを感じました。

新型コロナウイルスの影響で社会・経済の流れが変わり、新たな時代を支える動きとして、デジタル化や脱炭素化がさまざまな分野で急速に進んでいます。市制施行90周年で再認識した平塚の底力でこのような変化を先取り、将来にわたって「選ばれるまち、住み続けるまち」として前進していけるよう、市民の皆さまと共により進んでまいります。